特別展示の魅力を聞いてみよう！

桃むすめの工藤美乃さんが古河歴史博物館学芸員の永用俊彦さんに
今回の特別展示について質問してみました

いよいよ国宝「鷹見泉石像」が古河歴史博物館にやってきますね。

「鷹見泉石像」は重要な国宝です。東京国立博物館が所有する文化財の中でも特に管理が厳しいため、およそ30年間国内の施設に貸し出されたことがありません。だからこそ、今回の里帰りはすごく特別なことなのですよ。

国宝や国指定文化財を借用することは難しいのですか？

博物館だからといって無条件に貸し出してはもらえません。数々の調査を行って博物館の設備を審査します。今回は、当館の適切な展示環境と共に、特別展示への熱意を認めてもらえたからこそ実現できました。

ずばり、今回の特別展示の見どころは何ですか？

それは、東京国立博物館でも常設していない、国宝の中でも一級品の「鷹見泉石像」がここ古河で鑑賞できることです。今回の特別展示では、この偉大な文化財と共に古河にゆかりのある逸品の数々が里帰りしますので、ぜひ、ご来館ください。

東京国立博物館等所蔵 一部 展示品紹介

埴輪 大刀を持つ男子／古墳時代
東京国立博物館所蔵 Image：TNM Image Archives
画像提供：東京国立博物館

埴輪 大刀を持つ男子

埴輪は、首長や有力者の墓である古墳の上に並べられたもので、素焼きの土製品です。その種類を大きく分けると、円筒型のもの(円筒埴輪)と家や人物・動物型のもの(形象埴輪)の2種類に分けることができます。

東京国立博物館に所蔵されるこの人物埴輪は、市内中田に所在した高台二号墳から出土したと伝えられています。利根川の河川敷のうち、現在の中田周辺は、小さな古墳が密集する古墳群であったとみられており、明治43(1910)年の水害の際に墳丘が流され、大量の埴輪片が出土したといわれています。このとき、欠損のない埴輪が2体見つかったとされ「埴輪 大刀を持つ男子」はそのうちの１体と考えられています。

鵺退治絵馬：作者不明 / 奉納年不明 / 頼政神社所蔵

板碑(頼政郭出土)：13～16世紀/東京国立博物館所蔵
Image：TNM Image Archives
画像提供：東京国立博物館

鵺退治絵馬・板碑

平安末期の武将である源頼政を祀る頼政神社(錦町)には「鵺退治」の絵馬が奉納されています。弓の名手として知られる頼政が、猪早太と共に伝説上の妖怪である鵺を退治している様子が描かれており、制作・奉納年代は不明ながら、鮮やかな色が残る貴重な資料です。

頼政神社は、大正年間の渡良瀬川河川改修によって旧古河城の南端・頼政郭(立崎郭)から現在の場所に移されました。その際行われた発掘調査で、同郭から板碑や古墳時代の副葬品が出土しました。

特別展示では、東京国立博物館に所蔵される板碑のうち、頼政郭から出土した6基を借用して展示します。

特別協力：国立文化財機構文化活用センター、東京国立博物館